安倍新政権に期待する！



拉致問題解決をブレずに取り組んできた
安倍晋三首相と

年末の解散総選挙も終わり、国民の審判が下りましたね。

結果はご承知の通り、自民党の圧勝。そして、安倍新政権が誕生いたしました。

自民党・公明党合わせて三百二十五議席という事で、衆議院議員の三分の二以上の議席を取ったので、仮に自民党・公明党で過半数を持っていない参議院で、衆議院で可決した法案が否決されたとしても、再議決で法案を通せる数まで取りました。

無責任なマスコミ報道に国民は踊らされてはいけない

～マスコミが煽った政権交代は何だったのか～

取り過ぎじゃないの？という感想やご批判もあるのかもしれませんが、これが小選挙区制の特徴。少しでも多く得票出来れば、勝利は勝利ですから、オセロゲームのように前回勝利したものが、2位になれば負けていく。まさに、2位じゃ駄目なんですよ。ただし、比例代表制度では救われる事もありますけどね。

実際の所、自民党に風が吹いたというような得票数ではなく、前回敗北した時の得票数とあまり変わっていないんですよ。

ただ、この三年四ヶ月に渡る民主党を中心とした政権運営に対しての厳しい審判として、民主党の票が激減し、第三極と呼ばれるグループが、みんなの党や日本維新の会、未来の党などに票が分散した結果、元々足腰の強い自民党が小選挙区において大勝利したという事なんだと思いますよ。

しかし、足腰の強い自民党を再生し、保守系の国民が自民党に回帰したのは、やはり安倍総裁のお陰だと思いますね。

前回総理を辞められる時の辞め方に関しては、マスコミによる連日の大バッシングによって、体調を崩し、安倍晋三なる人物は、体もリーダーシップも弱く感じられている人も多くいるのでしょう。

しかし、そもそもあのマスコミのつくった安倍さんに関する印象は本当の姿だったのでしょうか。

その後煽った、民主党を中心とする政権交代は何だったのでしょうか。

寒中お見舞い申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

いよいよ平成二十五年も始まりました。

昨年はとうとう年末に民主党を中心とした政権は追い込まれ、総選挙に打ってでましたが、三年四ヶ月に及ぶ迷走を重ね、マニフェストを信用できないものにしてしまった民主党政権に対する国民の審判が下る結果として国民が不幸になる事が明らかになりました。

民主党政権に厳しい国民の審判が下る

耳障りの良い話や、マスコミ迎合政治は

私どもはこうした政治運営を反面教師として今後の活動に生かしていきたいと思います。

やわらかまじめ新聞

第74号

発行者
刷新の会
県議会議員鈴木正人
〒353-0004
志木市本町5-4-34
TEL048-476-7525
FAX048-476-7526

鈴木正人・県政報告会のお知らせ



とき　平成２５年３月３日（日）
１２時～

場所　志木市民会館
パルシティ203～205号室

会費　3,000円（懇親会費）

ご出席希望の方は TEL０４８－４７６－７５２５
または FAX０４８－４７６－７５２６
メールyawaraka4354@indigo.plala.or.jpにご連絡下さい。



埼玉県議会議員　suzuki masato　県政レポート2013　No.74

鈴木正人

ホームページ　http://www.trans.ne.jp/masato/

平成２４年１２月定例会報告

●青少年への入れ墨（タトゥー）を入れる行為を禁止する青少年健全育成条例の改正案など４６議案が可決成立。教育委員に愛知県私立幼稚園連盟会長の吉田敬岳氏など人事案件も同意。

メタンハイドレートの開発を求める意見書など決議１件意見書５件も可決

平成２４年１２月定例会は１２月２１日に閉会され、１８歳未満の少年少女達に入れ墨（タトゥー）を入れる行為を禁止する青少年健全育成条例の改正案や地域主権一括法施行による保育所や自転車レーンの設置に県独自の基準を設ける条例案など４６議案が可決されました。

また人事案件では、教育委員会委員に吉田敬岳氏やその他に収用委員会委員や公害審査会委員などの１３議案が同意されました。

議員提出議案として、まず北朝鮮のミサイル発射を受け、

・北朝鮮によるミサイル発射に抗議し、拉致問題の一刻も早い解決を求める決議

が１件が可決され、意見書では

・メタンハイドレートの開発を求める意見書

・緊急経済対策の早急な実施を求める意見書

など５件が可決されました。国会や国の関係省庁に提出される予定です。

※意見書とは，普通地方公共団体の議会は、その普通地方公共団体の 公益に関する事件について意見書を国会又は関係行政庁に提出することができるとされております。

※決議とは，議会が行う事実上の意思形成行為で、政治的効果を狙いあるいは議会の意思を対外的に表明するために行われる議会の決議の事です。

平成25年始動！



恒例の自転車街宣でスタート！
本年もよろしくお願いいたします。



平成25年度
刷新の会の予算要望を知事に提出

平成２５年度　刷新の会　予算要望　（志木市分）

●志木市中宗岡1－12柳下木材脇の歩道狭小部分の歩道拡幅
●県道川越・新座線　志木大通り　志木市本町1－1556－10付近の歩道拡幅
●志木市上宗岡3－1寿司一休脇への押しボタン信号の設置
●志木市上宗岡1－8－41袋橋通りへの押しボタン信号の設置
●志木市中宗岡2－26－4押しボタン信号の設置
●志木市上宗岡4－27　羽根倉橋西交差点に右折用矢印信号の設置
●志木市本町4－14　大原交差点　点滅式歩行者用信号の設置
●志木市下宗岡3－13－8　コインランドリー前の横断歩道に押しボタン信号の設置
●志木市下宗岡4丁目　木下建設西側　横断歩道設置
●志木市下宗岡4丁目　長島方北側　横断歩道設置
●志木市下宗岡4丁目　小峰方北側　横断歩道設置
●志木市中宗岡3－7－37　（昭和モータース前だけにこだわらずこの付近への横断歩道設置）
●都市計画道路中央通停車場線（本町通り）市道1193号線、本町3丁目の交差点付近から本町5丁目ユリノキ通りまでの3工区予定地域の街路整備事業の推進
●都市計画道路中央通停車場線（本町通り）の整備済み区間における歩道部分の歩行者と自転車へ通行区分の分離作業の実施
●主要地方道さいたま東村山線（いろは通り）中宗岡3丁目交差点の交差点改良の整備促進
●主要地方道さいたま東村山線（いろは通り）宗岡公民館前の交差点改良事業の整備促進と北側（中宗岡3－3エリア）の歩道整備の促進
●主要地方道保谷志木線（宿通り）上宗岡2丁目交差点の改良工事の着手
●国道254号バイパス第二期整備区間の暫定二車線など効率的な予算配分によって早期開通を目指す整備の促進

県政についてのご要望はこちらまで↓

刷新の会　鈴木正人事務所
〒353-0004　埼玉県志木市本町5-4-34
TEL：048-476-7525・FAX：048-476-7526
E-mail：yawaraka4354@indigo.plala.or.jp

マスコミの一方的な報道に煽られてはならない



母校　国士舘大学で学園祭のシンポジウム「皇国の興廃　教育にあり一教育は国家百年の大計」にパネラーとして参加し、戦後教育の見直しを訴えさせていただきました。

私は自民党員ではありませんが、国家観をしっかり持つ安倍晋三首相に期待をしております。どうもマスコミの安倍さんに対する感情的とも言えるバッシングには違和感を覚えますね。

そもそも、私は一地方議員として、微力ではありますが、北朝鮮による拉致問題の解決に向けて長年支援活動をさせていただきました。

テレビで拉致問題がたくさん取り上げられる時だけ胸にブルーリボンバッジをつけて、調子よく振る舞っていた国会議員を見てきましたが、安倍総理は一貫してブレずに北朝鮮による拉致問題解決に向けた活動邁進してきたのは、多くの皆さんが知っている事だと思いますよ。

もちろん前政権でも、松原仁　元拉致問題担当大臣などは、民主党の代議士ですが一生懸命活動しておりましたね。

しかし、前の民主党を中心とした政権のイカンのは、散々拉致問題などまじめに取り組んでいない人間を担当大臣に据えたあげく、国民や被害者家族会からひんしゅくを買って、大臣交代劇を続けて、ようやく松原大臣というまともな人選をしたかと思えば、あっという間に解任する訳ですよ。

全く本気で拉致問題の解決をしようとしている総理は民主党政権時代にはいなかったと確信しましたね。

民主党政権を振り返る

まあ、それにしてもマスコミが煽って国民が乗っかり創られた三年四ヶ月の民主党を中心とした政権は一体何だったのでしょうか。

鳩山さんの沖縄普天間基地の移転問題で最低でも県外、オバマ大統領への「トラストミー」という何の当てもない発言で、日米関係がズタズタになり、沖縄県民も嘘をつかれた事でかえって怒りで爆発し、政府を信用しなくなった訳ですよ。

菅さんの時代は、残念な事に東日本大震災が発生し、市民運動上がりという事で危機管理能力が弱い総理の時に大災害発生。切れやすい性格で、災害が発生している所に現場を無視した細かい指示を出し、原発事故の被害も広げてしまいましたよね。

そして、野田さん。

私は以前は好きな方でしたが、いざ総理になってみると総選挙で言っていた霞ヶ関のシロアリ退治どころか、財務省の言いなりになってしまいましたね。

一体何がしたいのかよくわからないうちに、デフレで不況の時に消費税増税を決めるなど、マニフェストではやらない事をやってみたり、経済政策は、どう経済成長させたかったのかＴＰＰ参加以外よくわからないうちに経済は停滞したままでしたね。

これでは、さすがに総選挙で三年四ヶ月の民主党を中心とした政権に厳しい結果を国民が与えるのも仕方がないと思いますよ。

いくら、公立高校授業料を無償化したとか、子ども手当を支給したと言われても、一方で扶養控除を廃止されてしまっては、実質増税の方もいる訳ですから、どっちらけになりますわ。

残念ながら、その後期待された第三極も、いわゆるフワッとした民意をものにしようと、耳障りの良い話ばかりしたり、道州制など制度さえ変えればまるでハッピーになるようなどうも説得力の薄い話に終始して、それほどブームも起こりませんでしたね。

安倍総理の経済政策に期待

脱原発も今回マスコミは必死に総選挙の争点にしたくて煽りましたが、即時原発ゼロとか言われても、庶民感覚からすれば「将来的には無くしてもらいたいけど、今すぐゼロにして、うちの職場や我が家の電気代が跳ね上がるのは勘弁して欲しい」というのが、多くの民意だったと思いますね。

今回の民意は、下がり続ける給料や、なかなか仕事に就けないデフレ不況を何とかして欲しい。景気対策をしっかりして欲しいと言うのが多かったんだと思いますよ。

そういった事からも、安倍総理が取り組もうとしている大胆な金融緩和、財政政策に期待したいですね。

金融緩和で、円安に誘導して輸出産業を復活させ、単なる金融緩和だけでは、市場にお金がまわらないので、国土強靭化で、防災減災、古くなった橋やトンネルを修繕するなどの公共事業を政府や自治体が積極的に行いデフレを脱却する。

今現在とても必要な施策だと思っておりますよ。

公共事業悪玉論ではすっかり景気は冷え込み、他に仕事があまり無い地方は特に落ち込んでしまいました。

多くのマスコミは公共事業批判をするでしょうが、まともな対案がある訳ではないですからね。

いつも言ってますが、国民の皆さんはマスコミ報道をもっと斜に構えて、鵜呑みにせずに自分の頭で考えて行動しましょう。

結局、マスコミに煽られた結果、この数年間政治は混乱し、我が国の経済も外交・防衛も弱体化しただけなんじゃないでしょうか。

そういった意味では、民主党を中心とした政権で国民がおおいに学んだという点では、政権交代の意義はあったんだと思いますよ。

とにかく、安倍総理に弱り切った我が国の再生を期待し、イデオロギーや感情的な批判に惑わされずに、厳しい目を持ちながらも、しっかりと応援していきたいと思っております。

県議会議員・47歳・本人
《第7号》
鈴木正人の活動と報告

日台友好議員連盟が設立

産経新聞埼玉版平成24年12月14日号より

「日台友好議連」設立へ

県議会議員有志、19日に総会

県議会の議員有志が台湾との友好と交流を目的として「日台友好議員連盟（仮称）」を設立することが13日、分かった。19日に設立総会を開く。

台湾は親日的で、東日本大震災の際には200億円を超える義援金が届けられた。ただ、県議会には外国との友好促進を目的とした議連は日中・日韓・日伯議連など5つあるものの、台湾についての友好議連はなかった。そこで、自民の佐久間孝氏、神谷裕之氏、田中千裕氏、刷新の会の鈴木正人氏が発起人となり設立を計画。「反日リスクの少ない台湾との交流はますます活発になる」としている。

一方で、台湾には沖縄・尖閣諸島の領有権を主張する努力もある。鈴木氏は「李登輝元総統のように『尖閣は日本の領土』との理解のある人たちとまず連携したい。意見の違う人もいるが、彼らは領土問題というより漁業問題としてとらえている。歩み寄りは可能だ」と話している。





近隣諸国の中で、唯一の親日派の多い台湾との友好親善を深めようと、埼玉県議会日台友好議員連盟が平成24年12月19日に設立されました。

設立当日は、来賓に埼玉県台湾総会　会長の林月理様　元日本台湾医師連合会　会長の岡山文章様、丘哲治様も駆けつけていただき、設立総会を盛り上げて下さいました。台湾は日本の生命線です。埼玉県と台湾の皆さんとの友好をさらに深めていきたいと思います。私は議連の幹事長として一生懸命実務や雑用に汗を流していきたいと思っております。

埼玉県議会　日台友好議員連盟　設立趣意書

我が国と台湾との間は、明治28年（1895年）日清戦争後の講和条約で台湾が日本に割譲されて以降、深い付き合いが始まりました。

台湾の近代化がスタートした我が国による５０年間の統治は、台湾の中でも歴史的評価は事実に基づいて客観的に行われており、例えば烏山頭貯水池建設を監督した八田與一氏の物語は、台湾の教科書にも記載され、今でも彼の命日には、毎年慰霊祭が行われております。

また、戦前戦中に教育を受け終戦まで日本人であった「父さん世代」は日本語も流ちょうで、地域によっては日本語が日常的に使われている場所もあり、台湾の皆さんは非常に親日的であります。

こうした歴史的事実から、日本と台湾とは友好的な関係が築かれております。

平成１９年度の実績として、我が国から台湾への訪問者は年間約**117万人**、台湾から我が国への来訪者は年間約**139万人**もの人的交流がなされています。

さらに、日台の貿易額は、同年実績で約**646億ドル**、我が国としては、米・中・韓につぐ４番目の貿易額になります。

そして、東日本大震災の際には、わずか人口**2,300万人**でありながら**200億円**以上の義援金を被災地に寄付していただき日台の絆がさらに強まりました。

尖閣諸島の件で反日デモや日本企業への暴動・略奪がおきた中国と違い、現在の台湾政府としては尖閣の領有権を主張しているものの、一般市民による反日デモや日本企業への暴動・略奪などという行為には発展しておりません。

李登輝 元総統に至っては、尖閣諸島の領有権は日本のものであるとの見解を示し、日台で漁業協定を結ぶための話し合いの中で、尖閣の問題を解決する事は可能だとの認識も示されております。

本県も、日台産業連携の架け橋となる「**日台企業連携セミナー**」が埼玉県で行われるなど反日というリスクの少ない日台交流はすでに進められております。

そこで、我が国の近隣で唯一親日的な台湾との友好並びに交流を、さらに推進するために本議員連盟を設立しようとするものであります。

設立発起人　埼玉県議会議員　田中千裕　神谷裕之　鈴木正人





昨年9月に訪台し
李登輝元総統と意見交換

県議会代表質問 傍聴のお知らせ

本年も2月下旬から始まる定例会で、刷新の会の代表として代表質問をさせていただく予定です。埼玉県議会議事堂での傍聴ならびにバス送迎希望の方は事務所までご連絡ください。

とき　平成25年　2月27日（水）午後１時より（予定変更もあり）

バス送迎希望の方は午前１０時頃志木市内出発１６時頃解散予定

℡０４８－４７６－７５２５　yawaraka4354@indigo.plala.or.jp